

あなたを癒やす

第135回

医心伝身

フー・ン・ナルボド

肥満症の体重減少治療には バルーン留置術の安全性が高い

典型的に太っていて高血圧、糖尿病、高脂血症、ヒザ関節変形、腰痛などの合併症がある場合を肥満症とされる。食事、運動、行動療法などの内科的治療により体重減少を図るが、場合によっては外科的治療を実施する。内視鏡を見ながら胃の中に専用バルーン（風船）を留置する治療法は、体に傷をつけることなく実施でき、胃を切らないので安全性が高い。

食生活の欧米化により日本人にも肥満が増えてきている。BMI値（ボディ・マス・インデックス）で22を標準とし、25

以上で肥満と認定される。これに高血圧、糖尿病、高脂血症、ヒザ関節変形、腰痛などの合併症がある場合に肥満症とされ、治療の対象となる。

基本的には食事、運動、減量に取り組む意欲を持たせる行動療法などで体重を減らすのが、重度の肥満症には、外科治療を実施することもある。

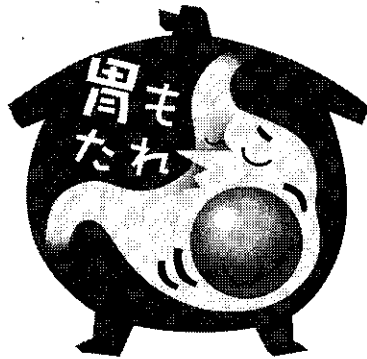
胃の一部を切除したり、胃に特殊なバンドを巻くなどの方法があるが、日本人は胃が

ンのリスクが高いため、胃の形体を変化させないバルーン留置術がローリスク治療として期待されている。

東京大学医学部附属病院胃・食道外科の畑尾史彦医師に話を聞いた。

「バルーン留置術の対象となるのは、BMI値が35以上で、かつ肥満症の場合です。まず、2週間程度の入院治療で食事と運動、それに行動療法による内科治療を実施し3ヶ月以上減った患者で、その後半年間の外来治療で体重を維持できれば、バルーン治療を受けることができます。体を傷つけることのない

いローリスク治療ですが、それだけに内科治療がある程度守れないと効果が出にくい面があります」



イラスト/いかわ やすとし

半年間の内科治療を経て、専用のバルーンを胃に入れる。まず胃カメラを入れて胃の状態を観察した上で、バルーン

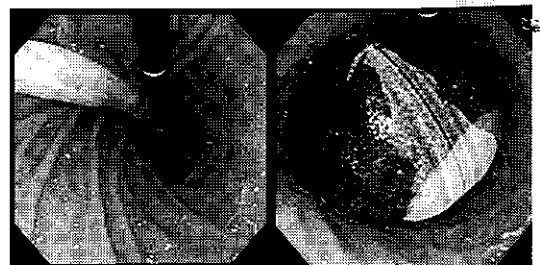
が収納された細いチューブを飲む。バルーンが胃に確実に入ったことを確認したらバルーンに生理食塩水を400ml、500cc注入し、十分に膨らませる。生理食塩水の量が少ないと効果が薄く、多いと究極の胃もたれのような状況になり苦しくなりすぎるので、胃カメラで確認しながら入れる。治療は30分程度で、その後5日から1週間程度の入院が必要となる。

「バルーン留置後は食事が摂れないので点滴を行ないますが、2〜3日すると水分が摂れるようになり、その後徐々に食事が摂れるようになってから退院です。まずこの間でもかなり体重が減少します。2〜3週間で普通の食事ができるようになりませんが、少量でも満腹になり、空腹にもなりにくいので食事量を抑えることができます」

「バルーンは長期間入れておく」と劣化して胃の中でしぼんだり、破裂することもあり、



大田院 東大医学部
史彦 附属外科
尾史彦 胃腸外科
畑史彦 胃腸外科
学胃



胃の中に入ったチューブ。白い筒の中にバルーンが収納されている（左）。生理食塩水が入り胃の中で膨らんだバルーン（右）

小さくなると腸に詰まって腸閉塞を起こす危険があるため半年で取り出す。費用は入院費を含め約40万円だ。

バルーン留置術の効果は、過剰体重減少率でみる。例えば165cmの身長では標準体重が60kgなので、仮に100kgだと40kgが過剰体重である。20kg減少したら50%減ということになる。この治療の効果は海外では20〜50%減と報告されている。半年後にバルーンを取り出すのが、その後体重を維持できるかは、その人の心構えと生活習慣に左右される。外来では心のケアを含めた指導を継続することで、体重維持を図る。
(取材・構成/岩城レイ子)